2K　英語F(補講)　　12月15日

まずは、前回の課題の和訳から。

50ページ1行目から51ページ4行目までの和訳

　日本が(とにかく最近まで)とても安定した経済を持っている一つの重要な理由は、労働力がとても熱心に働くことです。ほとんどの従業員は、毎日仕事に長時間を費やすことを気にしません。彼らは、しばしば超過勤務手当をもらわずに、しばしば週末そして休日さえも会社に来ます。もちろんすべての会社がそのようなきついスケジュールに固守しているわけではありません。そして過去10年ほどに、多くの変化が起きました。しかし概して、日本の会社は、まだ1年中営業していて、会社は従業員が会社にいることを期待しています。

　アメリカの会社はきわめて異なります。それらはより厳格な5日、一日8時間の週労働に従います。従業員は退社時間を過ぎてめったに仕事に残らず、ちょうど時間通りに打刻し、まっすぐ家に急いで帰ることを選びます。彼らにとって、会社に遅くまで残ることはただで働くようなものです。本当にしたくないことです。アメリカの政府は、このことについて彼らを支援します。労働者がどれだけの量、そしてどれだけの時間働くことができるかについての厳格な労働政策があります。一日に8時間以上働く労働者は、残業代が支払わなければなりません――通常賃金の1.5倍か2倍の割合で。だから、ほとんどの会社は従業員が時間通りに退社するよう奨励します。

　私をいつも驚かせるアメリカの職場と日本の職場とのあいだのもう一つの違いは、休暇の概念です。(再び最近まで)しばしば有給休暇を利用しない日本の従業員とは違い、アメリカの労働者の大多数は、自分のところに来るすべての休暇を取ります。それを辞退するなんて夢にも思いません。たとえ大きな予定がなくても、たとえただ単に家にいて、家の周りで気楽に過ごすだけの予定でも、アメリカ人は休暇をすべて使い切ります。あるいは、これも大きな相違ですが、彼らは自分が稼いだ休暇を現金化します。

　そして、もう一つ相違があります。休暇をとるとき、ほとんどの日本人は、続けて2週間か3週間の休暇を決して取りません。一方、アメリカ人は、1か月休暇をとることを何とも思いません。彼らは仕事から離れた長い休暇がなければ、頭がおかしくなるだろうと感じます。

［課題］

51ぺージから52ページの練習問題を、添付した解答欄を使って、12月17日までに送信しなさい。

以上